

## 兵庫・慧日寺の無学祖元像と特峰妙奇像

救仁郷 秀明(東京国立博物館)

無学祖元(仏光国師 1226～86)は、鎌倉幕府執権北条時宗の招請により弘安 2 年(1279)に中国から来日し、円覚寺の開山に迎えられた禅僧で、臨済宗仏光派の祖である。その肖像としては、円覚寺の開山堂に祀られている肖像彫刻が最も著名であり優れているが、現存する画像の遺品はそれほど多くない。

特峰妙奇(1299～1378)は、はじめ無学祖元の法嗣、高峰顕日に参じ、のち入元して即休契了に師事して印可された禅僧である。帰国後は高峰顕日の法を嗣ぎ、丹波に慧日寺を開創してそこに隠棲した。

慧日寺(兵庫県丹波市山南町)が蔵する「無学祖元像」は、開山・特峰妙奇とその師・高峰顕日、夢窓疎石の肖像画とともに伝来し、兵庫県指定文化財ではあるものの、保存状態がよくないためか、これまで大規模な展覧会で紹介される機会はなかった。

応急修理を経て 2016 年秋に東京国立博物館で開催された特別展「禅一心をかたちにして」に出品された「無学祖元像」に賛はなく、制作時期は作風から室町時代・15 世紀とみられる。寺伝では像主を無学祖元とし、兵庫県指定(昭和 62 年 3 月 24 日)においても「絹本着色仏光国師像」として指定されている。

本発表では、慧日寺の「無学祖元像」および同像とともに伝来する「高峰顕日像」、「夢窓疎石像」、「特峰妙奇像」について、比較すべき基準的作例と対照することにより、それらの史的位置を検討し、慧日寺の「無学祖元像」が当初は慧日寺開山・特峰妙奇の肖像画として描かれた可能性が高いことを明らかにする。